

日時：2021 年 9 月 17 日

出席者：会長（峰雪）、庶務幹事（宮沢）、会計幹事（三角）、編集委員長（堀口）、編集委員（榊原、吉田）、  
広報委員長（栗原）、広報委員（吉田）、評議員（稲田、今市、河野、高野、豊岡、永田、野崎、宮沢）、大会  
準備委員長（酒井）、大会委員長（豊岡）

欠席者：Ferjani 評議員、塚谷評議員、野口会計監査

書記選出

宮沢庶務幹事より、書記として永田会員が指名され了承された。

議題：

#### 1. 報告事項

##### (1) 会長報告（峰雪会長）

コロナ禍における大会形式の変更や運営への感謝などが述べられ、今大会および次年度についての見通し等が説明された。

##### (2) 庶務報告（宮沢庶務幹事）

資料に基づき 2020 年度の活動報告がなされた。あわせて、第 32 回大会（名古屋）について、初のオンライン開催となりポスター発表が中止された経緯などが説明された。参加者数は 67 名であり、例年よりは少なかったが無事に開催できたことが報告された。

##### (3) 編集委員会報告（堀口編集委員長）

Plant Morphology の Vol. 33 の発刊と Vol. 32 の J-Stage への公開について報告があった。出版関連の会計では、学会名が入った封筒を数年に 1 度印刷するため封筒代が若干多くなったこと以外は、例年通りであった。ただ、コロナ禍による昨年度新入会員の減少の反動か、想定以上に発表申し込み時に入会が増えたため、Vol. 33 の冊子体が不足する恐れが生じた。Plant Morphology の冊子体は例年 4 月発行となっているが、Vol. 33 は受理日が 5 月になった論文があったため、例外的に 5 月発行とした（発行月の例外的変更については評議員によるメール審議済み）。来年度は早めの出版としたい。

卒業した学生が退会手続きをとらず会員のまま残っている例が相当数存在し、印刷部数を決定する上で不確定要素となり、事務的負担の増加、学会の収支悪化につながる懸念材料となる。研究室 PI の方には、卒業生に退会あるいは会費の納入を勧めて頂きたい、との要望が述べられた。これを受けて、評議員会で議論がなされた。学生会員は入会時に自動的に 1 年限りとする案なども出されたが、毎年の手続きが煩雑になる懸念も示された。そこで結論としては、学生会員は、翌年まではこれまで通り冊子体送付などを行うが、翌年に入金がなければその時点で除籍とすることが了承された。

##### (4) 広報委員会報告（栗原広報委員）

定期的な HP 更新作業について報告された。HP の「最近の研究」掲載のための積極的な情報提供が呼びかけられた。

##### (5) 会計報告（2020 年度決算）／会計監査報告（三角会計幹事）

資料を共有しながら、2020 年度決算が報告された。大会がオンライン開催だったため、例年とは異なる収入内訳であることなどの説明があった。会計監査は、オンラインにて野口会計監査により監査済みであることが、監査報告書と共に報告された。

##### (6) 3 賞選考結果について（高野選考委員長）

今年度日本植物形態学会 3 賞について、選考の過程が報告された。募集締め切りは 6 月 18 日。選考委員会（選考委員長《高野》、委員《Ferjani、稲田、永田》、編集委員長《堀口》、オブザーバー《峰雪》）。学会賞は応募なし。平瀬賞（代表受賞者）は 4 件応募があり、古賀皓之会員、元村一基会員、佐藤良勝会員をそれぞれ代表とする 3 件が受賞。奨励賞は 1 件の応募があり坂本勇貴会員が受賞。平瀬賞については何件の授賞とするかが議論されたが、これまでも 3 件の例はあったということで、協議の末 3 件に授賞することが満場一致で決まった。ただし、授賞者の多くは学会への参加率が高くなかったこともあり、今後活躍していただくよう積極的な働きかけが必要であるという選考委員会の意見が述べられた。各賞の受賞理由は総会で説明する。

(7) 2021 年度大会（東京）について（豊岡大会委員長）

2021 年 9 月 17 日、本日開催の大会について報告された。当初は対面・遠隔のハイブリッド開催を予定していたが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により全てオンラインで開催することになった。受賞講演 4 題（平瀬賞 3 題，奨励賞 1 題）。大会参加者は 86 名、一般講演 31 名。日本植物学会における共催シンポジウムは 1 件「光によって拓く植物細胞内の真の構造機能」（オーガナイザー：吉田大和会員，植村知博氏）

(8) 2022 年度大会（京都）について（宮沢庶務幹事）

2022 年 9 月 16 日に京都にて開催予定であること（日本植物学会は 9 月 17 日から開催）、大会委員長は西村芳樹会員（京都大）であることが報告された。会場や開催様式などは、日本植物学会の動向次第であり、西村会員に検討を依頼しているとのこと。

(9) その他

要旨集の訂正が報告され、差し替えについて総会でアナウンスすることが確認された。

## 2. 審議事項

(1) 2021 年度事業計画案について（宮沢庶務幹事）

2021 年度事業計画案（評議員会当日までは実績）が示され、了承された。

(2) 2021 年度予算案について（三角会計幹事）

2021 年度予算案（評議員会当日までの実績を含む）が示され、了承された。

(3) 総会議長候補の選出について（宮沢庶務幹事）

総会議長を稲田会員に依頼することが了承された。

(4) 3 賞選考要領について（宮沢庶務幹事）

これまで利害関係者を選考委員候補から除外することをしておらず、選考委員長の判断により選考委員会で利害関係者を投票から外すなどがされてきた。そこで選考要領を見直すべきではないかという問題提起がなされ、評議員会で議論を行なったところ、以下のような様々な意見が出た。

- ・はじめから利害関係者を選考委員候補からはずす、というのが本来あるべき姿である。
- ・どこまでが利害関係者かというのは判断が難しい（過去の共著者まで含めるのか）。
- ・選考委員から利害関係者を除外した場合、評議員から 5 名の選考委員を選ぶことができなくなる可能性がある。
- ・自動的に選考委員に加わる編集委員長が利害関係者だった場合はどうするのか。その場合は、編集委員が代わりを務めるということではいかかか。
- ・選考委員を選ぶ前に候補者を評議員・編集委員長に開示し、利害関係者がいた場合に該当者を除外して選考委員の互選を行う。足りなくなった場合は、前の期の評議員のうちで利害関係のない会員も選考委員候補にする。
- ・利害関係者だからと言って、それを理由に選考委員会から外れることは無いことを選考要領に明記する。この時、利害関係者については、選ばれたとしても利害関係者の選考に関する議論、投票には一切関わらないことも、選考要領に記す。
- ・平瀬賞の場合は共著者全員が受賞者となると考えるならば、現行通りの受賞対象者のみを選考委員候補からはずすということで構わないのではないか。
- ・選考要領の見直しまでは行わず、申し合わせ事項として詳細を決めておくことで対処していかかか。

総会で、評議員会に一任との了解をとった上で、継続審議することとなった。

(5) 会長選挙の規定について（宮沢庶務幹事）

会則では学生会員でも会長選挙の被選挙権がある。これを修正すべきではという申し送り事項があり、議論を行なった。評議員会では、学生会員であっても問題はないという意見が多く、従来通りで変更なしということになった。

(6) 会長候補の推薦について（宮沢庶務幹事）

毎回評議員会にて会長候補者を3名前後推薦しているので、今回もご協力いただきたいとの呼びかけがなされた。

(7) その他

授賞式のみ写真撮影を許可する旨のアナウンスをすることが了承された。